

彦根の魅力を発信しよう

まちの魅力は、あなたが見た景色、出会った人、体験した出来事など、人によってそれぞれです。その魅力を表現し発信してみませんか？あなたの発信が誰かの共感を生み、このまちを輝かせる原動力になります。

参加無料!

あなたのスキな彦根を発信しよう! 市民ライター講座 <共催・ウィズ>

彦根で活動する人の想いや魅力を引き出すインタビュー方法やライティング(記事作成)の基礎を学べる講座を開催します。作成された記事は特設ホームページで発信します。

昼コース(定員10人※先着順)

第1回:1月31日(金) 10:00~12:00
第2回:3月5日(木) 10:00~12:00

夜コース(定員10人※先着順)

第1回:1月31日(金) 19:00~21:00
第2回:3月5日(木) 19:00~21:00

場所 困男女共同参画センター「ウィズ」(平田町)

※詳しくは、彦根市ホームページをご覧ください。

応募条件

- ▶第1回、第2回とも参加できる
- ▶高校生以上

応募方法 彦根市ホームページか右のQRコードからお申し込みください。
応募期限 1月24日(金)



▲ライター講座
応募フォーム

彦根をあるこう! #ひこさんぽフォトコンテスト



市では、「Good Roots HIKONE ~彦根の根っこは、明日を育む。」とし、これまでの歴史の「根っこ」と、現在から未来へつながら「枝葉」を表現したロゴマークを作成しました。今回は、SNS(交流サイト)を活用して、この「根っこ=昔の彦根」と、「枝葉=今の彦根」の2つのテーマで実施します。

昔の彦根部門

これまでの彦根の歴史(根っこ)を感じられる写真(足軽屋敷や彦根城、昔のにぎわいなど)

今の彦根部門

これからの彦根の広がり(枝葉)を感じられる写真(現在彦根で行われている活動や子どもなど)

応募方法 詳しくは、彦根市ホームページまたは公式 SNS をご覧ください。
応募期限 1月26日(日)



- グランプリ(2人) 10,000円相当の商品券
- 準グランプリ(4人) 2,000円相当の商品券
- 彦根市長賞(1人) 5,000円分の近江牛ギフト券

▲市民40人による市民ワーキング会議で作られたブランドメッセージをもとに作成したロゴマーク

彦根市シティプロモーション公式 SNS



観光情報だけでなく、身近な彦根の魅力を市民の皆さんと一緒に発信しています。

彦根市シティプロモーション

検索



▲ Facebook の QR コード



▲ Instagram の QR コード

@lovehiko.citypromo

フォローもお願いします!

譲れない想いを伝える!

昨年8月に、「彦根のまちの未来や自らの挑戦などの想いを1分間で語る」というプレゼンテーションイベントを開催しました。「コメンテーター・伊藤羊一賞」を受賞した原田さんにお話を伺いました。



Talk Your Will in HIKONE 1分間で伝えるわたしの思い

県内で初めて開催しました。21人の登壇者が彦根のまちの未来や自らの挑戦など譲れない想いを1分間で語りきり、約120人の観衆で満員となった会場は、共感と応援の声で大いに盛り上がりました。



周りの人たちからの応援などが、想いを行動に移すきっかけになりました。

参加のきっかけは? 私自身、特に地元に対する愛情などを感じないまま過ごしてきたため、友人に彦根のおすすめスポットを聞かれてもうまく答えられないでいました。また、市内で子どもを連れてお母さんの行き場がなく、市外のまちへ遊びに行っている現状に寂しさを感じていました。

どのような想いを語りましたか? 0~2歳の子どもを持つお母さんをターゲットに、市内の子育てに特化した情報誌「ママパスポート」を発行することで、お母さん同士のつながりが生まれ、孤独感を抱えることなく彦根を好きになってくれるママを増やしたいという想いを発表しました。



「コメンテーター・伊藤羊一賞」受賞者 原田 絢子さん

参加してみたいか? 周りの人たちからの応援や賞をいただけることで、想いを行動に移すきっかけになりました。実際に、その後、「HIKONE MAMA POWER(ヒコネママパワー)」という団体を立ち上げて準備を進めています。

どのような情報誌にしたいですか? 0~2歳の子育てに必要な情報に限定することで、お母さんにとって使い勝手の良い冊子にしたいです。また、スマートフォンを見る時間を減らしたくて、アプリやウェブ版ではなく、紙(冊子)にもこだわりたいです。将来的にはこの冊子をきっかけに、お母さんの経済的な自立に役立てないかとも考えています。

た。せっかく住んでいるのだから、自分で動いて「彦根のことが好き」と思えるようにしたいし、お母さんが、彦根のことを好きでないと、子どもたちも自分のまちのことを好きにならないんじゃないかとも思っています。

「Talk Your Will in HIKONE」実行委員長・中川原 大樹さん



今回登壇された21人の目は本当に輝いていましたし、その想いを受け取った観客の皆さんからはたくさんの応援が寄せられていたので、とてもうれしく思いました。今後も、市民と行政が協働しながら、みんながやりたいことを互いに応援し合えるまちにしていきたいです。

